



(吉野山)

奈良・藤原京跡十一條・朱雀大路 ふじわらきょう

- 1 所在地 奈良県橿原市和田町字石田
- 2 調査期間 二〇〇〇年(平12)一月~三月
- 3 発掘機関 奈良県立橿原考古学研究所
- 4 調査担当者 卜部行弘
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代・飛鳥時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は藤原宮大極殿跡から南へ約一・九kmの朱雀大路想定位置で、和田廃寺塔跡から北東八〇mの水田中に位置する。県道新設に伴い、六六〇㎡を調査した。

検出遺構は古墳時代の土坑・落ち込み、藤原宮期前後の掘立柱建物・柵・井戸・土坑・溝で、朱雀大路に該当する道路遺構は検出されなかった。遺物は、古墳時代の遺構から須恵器・土師器・韓式系土器・獣歯・

双孔円盤、藤原宮期前後の遺構から土師器・須恵器・瓦が出土した。木簡が出土した井戸一は、径一二・五cm深さ一〇・五cm(検出面より)を測る。上下二段にはほぼ垂直に掘り込まれ、下段には方形の石組みが遺存していた。石組みは一段構成で、南北両辺は長手の同種の石材各一個を横置きし、東西両辺はその間を埋めるように小振りの石材各二個を縦置きしている。石組みの内法は平面五二cm×五五cm高さ三五cm。埋土は石組み内が三cm大の礫層、石組みより上が灰色ないし黒灰色粘質土となっている。木簡は黒灰色粘質土から須恵器・土師器・瓦・もえさし・横櫛・木片とともに投棄された状態で出土した。井戸の廃絶は藤原宮期直前で、木簡も同時期とみられる。

8 木簡の釈文・内容

(1) 米四斗二升上

(85)×13×2 061

上端をわずかに欠損する。両端ともに鈍く尖らせる。

9 関係文献

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館『大和を掘る18—一九九九年度発掘調査速報展』(二〇〇〇年)



(卜部行弘)